

# 個人（個別）登校への移行について

2025年2月  
天童市立天童南部小学校

## 1 移行の趣旨

- (1) 開校以来続けてきた集団登校は、以下の点から持続可能な実施が困難な状態にある。
  - ① 現在の教育課程の運営上、通学班編制や通学班への登校指導に困難さ（時間、教育効果などの諸観点から）がある。
  - ② 近年（コロナ禍を経て）の通学班での登校の様子から、通学班でまとまって登校している状態というよりは、班が分かれたり他の班とまじりあったりして登校しているのが実情である。（大通りに囲まれている学区ということもあり、班がまとまってしまうのは必然）
  - ③ 通学班登校によるトラブルが多い。（集合時刻を守れない、欠席の連絡がない、下級生が上級生の指示を聞かない、上級生が下級生をおいていく、など多岐多数。）
  - ④ 通学班長に登校時の責任をゆだねている側面があることで、当該児童の負担感がある。また、通学班長だけが登校時の安全について目を配り、班員は班長について歩いているだけなので児童一人一人の安全意識が高まらない（自分で判断し行動できない）。
- (2) 南部っ子サポーターや交通指導員、安全協会、防犯協会などの関係機関等、そして保護者の協力もあり、現在のところ登校時の安全確保については大きな課題はない。
- (3) これまで、個人（個別）登校を試行してきたが、大きなトラブルはほとんどない。
- (4) 教育目標に示す、「うつくしい子」（自分でくらしを創る子供=自立・自律）の具現化のため、交通安全について、自ら判断し自己を律しながら登下校できる児童を育てていく。
- (5) 以上のことから、令和7年の10月より、集団登校を廃止し個人（個別）登校とする。ただし、子ども育成会や保護者間で連絡連携して町区や隣近所でグループ（班）を編成し登校できるようにすることも可とする。
- (6) 個人（個別）登校への移行に向けて、保護者・地域・関係機関の理解と協力を図るよう今後も努めていく。

### 参考資料

- ① 集団登下校の概要、成立の起源などについては、右のQRコードから。
- ② 2021年度文科省調査では、全国で集団登校以外の方法（個人・個別登校など）で登校している小学校は約40%。
- ③ 山形市内の小学校では、現在14校（36校中：約40%）で自立登校（個人登校）を実施。
- ④ 個人（個別）登校の長所と短所の一例



長 所	短 所
1 児童一人一人が安全に配慮しながら行動できるようになる。	1 緊急時、または、交通や防犯にかかわる安全面での配慮や判断、対応が個人につく。
2 児童と保護者が、安全・安心に登校するための方法が選べる。（個人、小グループ、既存の班など）	2 登校の見届けができない場合が生じることがある。
3 集団にしばられずに登校することができる。（待つ待たせる関係、家を出る時刻、歩くスピードなど。不登校傾向児童や緊張感の高い子はプレッシャーから解放される。）	3 登校時間帯が伸びるなど、関係機関による既存の見守り体制への影響が生じる場合がある。
4 人間関係の軋轢がないため、登校中のトラブルが減る。	4 場合によっては自家用車で学校へ送り届けたり、途中までお子さんに同行したりするなど、保護者の負担が増える場合がある。
5 通学班長・副班長の負担がない。	5 個別に相談して小グループを編成し登校する場合、欠席や遅刻の連絡が困難である。
6 学校以外への欠席、遅刻の連絡をしなくてよいため、保護者の負担が少なくなる。	6 縦の人間関係の構築を図ることが難しい。

※ 集団登校の長所と短所は、上記のそれと裏返しになる場合があります

## 2 個人（個別）登校移行への今後の対応

	内 容	備 考
1	・12月5日のPTA総務部会でPTA役員の方へ、また、12月13日の学習参観日に保護者へ、個人（個別）登校への移行の動きがあることを説明する。	・個人（個別）登校移行への経緯を含めた概要を説明する。
2	・2月6日の新入生一日入学の日に、新入生保護者を対象として登下校について説明する。	・現在月3回の個人（個別）登校を実施していること、完全実施へ向けて検討中であることを知らせる。
3	・2月10日の学校評議員会で、個人（個別）登校完全移行について説明。	
4	・2月14日のPTA三役会で、個人（個別）登校への移行についての趣旨など再度説明する。	・資料を配付し、令和7年の5月から個人（個別）登校日を段階的に増やし、10月から完全に移行する考えをお伝えする。
5	・2月19日の学習参観日に、保護者を対象として個人（個別）登校への移行についての詳細を説明する。	・令和7年の5月から個人（個別）登校日を段階的に増やし、10月から完全に移行する旨をお伝えする。
6	・2月から3月で、新通学班の編成を行う。（2月13日実施済み）	・できる限り簡易的な方法で編成する。
7	・令和7年4月から5月の大型連休明けまでは通学班での登校とする。 ※1・2年生は交通教室（歩行）を実施。	・毎月の7のつく日は「南部の日」として登校指導を行う。
8	・4月のPTA総会で保護者に、5月中旬までには関係機関へ個人（個別）登校完全実施について説明する。	
9	・令和7年5月は月2回（5/16・5/27）、6月は月3回の南部の日に個人（個別）登校を実施する。7月以降は、週2回（連日）で実施するなど回数を増やし、9/25から9/30までの試行期間を設け、10月1日以降は個人（個別）登校を行う。	・個人（個別）登校を行う際は、各学級で事前事後指導を密に行う。また、教員による立哨指導を行う。
10	・10月以降の「南部の日」の朝活動で、交通安全指導を各学級で行う。	
11	・以下の課題については、令和7年度中に対策を考えて年度更新時に備える。 ① 新入生への4・5月の登校サポートについて。 ② 持続可能な安全確保について。 ・南部っ子サポーター ・防犯パトロール ・子ども110番 ・PTA、子ども育成会	<左記①の対策例> ・学校や保護者から、高学年児童へサポートを依頼する。 ・新1、2年生で登下校班を編成する。 ・新1、2年生保護者を対象とした登校方法について、年度末までにGoogleフォームなどによる調査を行い、不安があるご家庭には学校、PTAでサポートする。 ・登校時安全確保強化旬間を設け、学校、地域、関係機関が連携し、立哨指導体制を構築するなどの取り組みを行う。
12	・定期的な評価に努める。	①登校指導における教員による評価 ②交通指導員連絡会やP役員会での評価 ③学校評価アンケート など

## 移行に向けてのQ & A

(含：R6.11の意見聴取会での質問)

### Q 1：個人登校への移行は、どこから出た意見なのか。

A：本誌の趣旨に示した通り、学校から出させていただいたものです。

### Q 2：他地区や全国の動向はどうなっているのか。

A：本誌の参考資料にお示ししました。

### Q 3：「はじめから移行ありき」になっていないか。

A：登下校の方法につきましては、最終的には学校(校長)が決定するものですが、保護者、地域、関係者の皆様からのご意見も参考に判断し決めていく所存です。11月の意見聴取会では、移行を前提にして意見をうかがいました。

### Q 4：通学班登校、個人登校のメリット、デメリットを説明してほしい。

A：本誌の参考資料に示しました。

### Q 5：デメリットがあれば、それへの対策はあるのか。

A：現在把握している課題についての対策は別紙し示しましたが、不十分な点もありますので、今後も継続して対応策を練り、必要に応じて関係機関へのご協力いただけるようにしていきます。

### Q 6：移行が早すぎないか。

A：令和4年度後期から検討している案件です。今後の継続案件(令和8年度以降へ)としてはありません。ご意見をいただき、別紙に示したように、令和7年度の10月の完全移行をめざしたいと考えています。

### Q 7：PTA三役から各学年におろすなどして、意見を吸いあげたのか。

A：令和4年度にアンケート調査をしています。その際は、多くの保護者が通学班登校を、多くの児童が個人登校を望んでいること、それぞれの通学方法についてのよさや課題についてのたくさんの意見があることがわかりました。今後、アンケート調査をする予定はありませんが、寄せられるご意見には真摯に対応してまいります。

### Q 8：個人登校にすると親の負担が増えるのではないか。

A：本誌の参考資料内にあるように、負担が減る場合もあります。個別にグループを組んで登校する際に保護者同士で連絡を取り合うことがあるとは思いますが、個人での登校を想定した移行ですので、保護者の皆様の負担にならないようにご対応いただくか、PTA組織として対応いただくことであると考えます。

### Q 9：通学班の教育的機能が失われるのではないか。また、これからの社会が進むべき方向と逆行するのではないか。

A：「縦のつながりを通した豊かな人間関係の構築」については、学校教育もその一役を担っていることは承知しています。しかしながら、社会教育の一環として、児童が生活する地域(コミュニティー)がそれについての大きな役目を担っていると考えます。学校では、特別活動を核に、異学年で委員会・クラブ・縦わり班などを組織して学習活動を行いながら良好な人間関係の構築に努めています。このことから、このご意見につきましては、ぜひ本地域の課題としていただき、今後も共に対応させていただきたいと考えます。

※ 「子どもの管理、安全という観点からの話である」というご指摘もありましたが、学校としては安全・安心に登校することを主に据えて判断しております。

### Q 10：通学班廃止は負の遺産になるのではないか。

A：今回の移行(廃止)につきましては、現在の児童や登校の実態と今日的な社会状況の変化(交通安全対策、個人志向の高まりと地域コミュニティーの危機、教育界を巡る諸問題等)に対応した動きあり、負の遺産にならないようにしていきたいという思いです。

なお、「私たちの学校、地域のための学校、学校があってこそその地域」の具現化を図るには、天童市以外の地区で多く導入されている「コミュニテースクール」が最適な方法であると考えています。(今まで以上に地域の声が学校経営に生かされたり、教職員の異動に左右されたりしない学校づくりが可能です。)